

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○令和6年度の全国学力・学習状況調査の正答率は国語・算数とも大阪市、全国平均を下回る結果となった。また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査は、全国平均を下回ったものの、男子は大阪市平均を上回った。児童の学びや活動に対する意欲は高く、何事においても柔軟に最後まで取り組むことができる。学校全体としては、落ち着いて学習に向かう姿勢が見られる。本校児童の備えもつ力を生かし、学習や運動に対する取り組みも充実ができたらと考える。

○児童同士の仲は良く、声を掛け合いながら一緒に解決をしようとする。休み時間は外で元気に遊び、運動に楽しく取り組む様子が見られる。

○様々な視点から、取り組みの意義を捉え、発信していくことで本校の学校運営の向上をめざす。また、保護者や地域と一緒に学校行事を進め、関係深化をめざしていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を9%以上にする。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

○年度末の校内調査における「学校のきまりを守っている」「まあまあそう思う」と答える児童の割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における「学校のきまりを守っている」「まあまあそう思う」と答える児童の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を42%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を74%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は、「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育環境の充実」の3つを最重要目標として取り組みを進めてきた。全体として、児童の姿や教職員の努力が着実に成果となって現れた一方で、引き続き改善が求められる課題も明らかになった。

まず【安全・安心な教育の推進】においては、学校で認知したいじめについて解消に向けた対応を100%行うことができ、教職員間の情報共有体制や不登校児童への組織的支援も継続的に実施することができた。しかし、いじめに該当する事象そのものの件数が依然として多く、未然防止の観点から、学級づくりのさらなる充実やSST・アンガーマネジメントなどの新たな手法の導入が今後の課題となる。

次に【未来を切り拓く学力・体力の向上】については、授業中の話し合い活動や体験的な学習を工夫したことにより、児童が自分の考えを持ち、交流の中で深めていく姿が増えた。また、ぐんぐんタイム等の基礎学力向上の取組により、一部教科では前年度を上回る成果もみられた。理科や運動への意欲は高い傾向が続き、体験活動への参加意欲も強かった。一方、英語学習に対しては中学年以上を中心に苦手意識が見られ、学習内容や指導の工夫が引き続き求められる。また、運動場での遊びに積極的でない児童への働きかけなど、活動の幅を広げる工夫も課題として残る。

【学びを支える教育環境の充実】に関しては、学習者用端末の活用が習慣化し、児童理解の手がかりとして「心の天気」を活用できたことが大きな成果であった。また、働き方改革の取組が機能し、教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員が100%に達したことは、学校全体の健康的な職場環境づくりに寄与している。ただし、「いいとこみつけ」などのデータ活用は改善の余地があり、より実効性のある支援につなげる仕組みが必要である。また、学年や担当によって業務負担の差が依然として存在するため、業務の見直しや分担の再構築が今後の課題となる。

総じて、本年度の取組は多くの面で目標を達成し、児童の学びと成長を支える基盤づくりが進んだ一年であった。今後は、いじめの未然防止、英語学習の苦手意識への対応、データ活用の深化、業務負担の均衡化といった課題に継続的に取り組みながら、より質の高い学校運営をめざしていく。

(様式例 2)

大阪市立茨田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○令和 7 年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。76%</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 1.37%→0.71%</p> <p>○年度末の校内調査における「学校のきまりを守っている」「まあまあそう思う」と答える児童の割合を 88%以上にする。83%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>「いじめ」が起こりにくい学級の取り組み、「いじめ」が起こっても解決し、のりこえていく学級集団づくりを推進する。</p> <hr/> <p>指標 日々の教育活動や道徳、人権教育実践を通して、なかまづくりができるような取り組みをすすめる。また、学期に一回いじめアンケートを行い、いじめの実態を調査する。学校で認知したいじめについて、解消に向けた対応の割合を 100%にする。</p>	B
<p>取組内容②【施策 1 安心安全な教育環境の実現】</p> <p>生活指導部会や職員連絡会で情報を共有し、支援の必要な児童や不登校や学校に来づらくなっている児童に対して組織的に対応する。</p> <hr/> <p>指標 生活指導部会、職員連絡会を月一回以上実施し、児童の情報共有を図る。生活指導部会では、出席票をもとに欠席が目立つ児童を特定し、ケース会議を行う。また、不登校や行き渋り児童の対応として、スクールサポーターとの連携をすすめていく。また、学期に一回以上 SSW や SC などの外部組織と連携する。</p>	B
<p>取組内容③【施策 2 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の年間指導計画に基づいて児童の実態に即した指導を行い、思いやりの気持ちを持ち、きまりを守ろうとする心を養う。</p> <hr/> <p>指標 道徳ノートや ICT 機器を活用しながら、すべての題材に取り組む。また、「きまり・思いやり週間」における、学校アンケートの肯定的意見を 80%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 学校で認知したいじめについて、解消に向けた対応の割合を100%にすることができている。
- ② 生活指導部会、職員連絡会を月一回以上実施し、児童の情報共有を図ったり生活指導部会では、出席票をもとに欠席が目立つ児童を特定し、ケース会議を行ったりしてきた。さらに、不登校や行き渋り児童の対応として、スクールサポーターとの連携をした。
- ③ 道徳科も年間指導計画に基づいて児童の実態に即した指導を行うことができている。

次年度への改善点

- ① 起こった事象に対しての解消に向けた対応を100%にできているが、件数が多いので、いじめ（暴力・暴言）の数を減らせる取り組みを考えなければならない。
- ② 次年度も引き続き行う。
- ③ 道徳科の授業を行うことはできているが、児童に思いやりの気持ちやきまりを守ろうとする心が養われているか分からない。学校としてSSTやアンガーマネジメントを取り入れる等、改善のための取り組みが必要である。

大阪市立茨田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 42%以上にする。 34.8%</p> <p>○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 (2 学年算数、1 学年国語がポイントが向上した)</p> <p>○小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 79%以上にする。 91.8%</p> <p>○小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77%以上にする。 72%</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 74%以上にする。 87.8%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】(「主体的・対話的で深い学び」の推進) 「主体的・対話的で深い学び」がある授業を目指す。</p> <p>指標 ペアやグループで交流する機会を 1 日に 1 回以上、授業中に設定する。</p>	A
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(英語教育の強化)</p> <p>「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の力を育成する英語教育を行う。</p> <p>指標 週 2 回英語タイムを設定し、外国語に親しませる。また、学校アンケートで、「英語を学ぶことは楽しいですか」と答える児童を 75%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】(言語活動・理数教育の充実)</p> <p>学力の向上に向け、基礎・基本を定着させ、個に応じた指導を行う。</p> <p>指標 週 1 回、ぐんぐんタイムを設け、算数の基礎・基本の定着を図る。</p>	B
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】(言語活動・理数教育の充実)</p> <p>実験・観察や、総合的な学習の時間と関連させて、体験活動を多くする。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75%以上にする。</p>	A
<p>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】(体力・運動能力向上のための取組の推進)</p> <p>児童の体力向上に向けた取り組みを推進する。</p> <p>指標 学校アンケートにおける「よく運動場であそんだり、進んで運動したりしている」の項目で肯定的な回答をしている児童の割合を 70%以上にする。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 授業中にペアやグループで交流する時間を設けることで、児童の自信につながったり、考えが深めたりすることができた。
- ② 英語に関する校内アンケートの結果は、68%であった。低学年については、英語タイムに楽しく取り組んでいる様子である。中学年以上になると、覚える・聞く・書くの学習となってくるため、苦手意識を持つ児童が多い。
- ③ ぐんぐんタイムでは、100マス計算に取り組んだ。その結果、自信をもって九九ができるようになったり、計算スピードが上がったりする児童が見られた。また、学年の実態に応じて取り組んだため、基礎の定着がみられる児童もいる。
- ④ 児童は、理科の学習に興味や関心を持ち、楽しんで取り組んでいる。自分の考えや予想を立てて学習を進めたり、体験的な活動に意欲を持って取り組んだりする姿が見られ、実験にも課題意識を持って参加している。
- ⑤ 「よく運動場で遊んでいる」という児童は、69%であった。気温の問題もあり、外に出て体を動かすことがむずかしい時期もあったが、みんな遊びや運動週間の取り組み等もあり、気温が安定しているときには多くの児童が運動場で遊んでいる。

次年度への改善点

- ① 引き続き学習形態を工夫し、児童の学びが深まるような取り組みを設定する。
- ② 覚える・聞く・書くに対する苦手意識が強いため、英語学習の工夫が必要である。
- ③ 週1回のぐんぐんタイムだけでなく、児童自身が隙間時間等に実施できるような問題を準備しておくなど、何度も繰り返し学習することが必要である。
- ④ 引き続き取り組みを行う。
- ⑤ 運動週間の継続、もしくは活動の工夫を行う。
- ⑥ 一部の児童は外で過ごすより教室で過ごす方が好きであるため、運動の楽しさを知る工夫が必要である。

(様式例 2)

大阪市立茨田小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 80% 以上にする。<u>(1 月達成)</u></p> <p>○第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 90% 以上にする <u>(100%)</u>。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向 6 教育DXの推進】(教育ビッグデータの活用)</p> <p>「心の天気」や「いいとこみつけ」を活用することで、児童の心の状態や日々の生活状況を可視化し、児童理解を深める。</p> <p>指標 毎日「心の天気」を入力させる。学期に 1 回スクリーニングシート(いいとこみつけ)を入力する。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>(働き方改革の推進)</p> <p>ゆとりの日(「さくらの日」)や長期休業期間の閉庁日、日々の休憩時間を設定する。</p> <p>指標 超過勤務の削減を推進するため、毎月 3 回以上のゆとりの日を設定、休憩室の維持と運営を行う。また、長期休業期間に閉庁日を 5 日以上設定する。</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取り組み内容①</p> <p>心の天気やいいとこみつけの活動を継続したことで、多面的な視点で児童理解を深めることができ、気になる児童への早期教育相談や声掛けにつながられた。</p> <p>取り組み内容②</p> <p>教職員の心身の健康保持と業務効率化のため、ゆとりの日の徹底や長期休業期間における学校閉庁日を適切に設定した。その結果、教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合が 100% に達した。教職員の退勤時間の意識化が進み、健全な職場環境づくりの成果につながった。</p>	
次年度への改善点	
<p>取り組み内容①</p> <p>「いいとこみつけ」は活用することが難しい部分もあったため、次年度への実施を検討する必要がある。「心の天気」の入力は習慣化できてきたが、集計されたデータの支援や指導への活用には改善の余地がある。</p> <p>取り組み内容②</p> <p>制度は機能しているが、学年や担当によっては十分な余裕が生まれにくい状況があるため、業務の見直しをすすめる必要がある。</p>	